

前十字靭帯(ACL)再建クリニカルパス

氏名 _____

病日	入院日	手術日	1日目	2日目から3日目	4日目から6日目	7日目から8日目	9日目(退院日)
年月日	/	/	/	/	/	/	/
安静度		手術後は翌朝までベッド上で安静となります 体位による足の麻痺防止のため 膝が上向きになるようにします 	装具(ニーブレース)をつけて車椅子で動くことができます 初回は看護師に確認して移動してください 		膝の装具(ニーブレース)を使用し歩行します 膝の腫れが軽減したら、膝の屈曲ができて安静が保てる装具(ドンジョイ)に変わります (歩行開始やドンジョイへの変更時期は理学療法士より指示があります) 日常生活で装具をつけている期間の目安は3ヶ月ですが、筋力がついていなければ 3ヶ月以降も使用します。夜間は手術後、1ヶ月ニーブレスを装着します 		
食事	普通食 (食事の種類・形態は医師の 指示で変更することがあります) 	手術前は、飲食出来ません 手術後は、帰宅4時間後に飲水、 6時間後に食事を取ることができます 看護師が腸の動きを確認します 	普通食(食事の種類・形態は医師の指示で変更することがあります)				
清潔	シャワー浴ができます 爪切り(入院前に行っておください) 		身体を拭きます 		創部を保護してシャワーを浴びることができます(方法は看護師が説明します) 		
排泄	トイレに行くことができます 	術後、翌朝まで排尿用の管が入ります	装具(ニーブレース)をつけて車椅子でトイレに 行くことができます 初回は看護師に確認して移動してください 				
診察・処置	必要時、下肢の除毛をします (基本的には、手術をする足 両足の場合もあります)	家族の方は、手術の変更や不測の事態に 備え、手術が行なわれている間、病棟内で 待機していただきます 術後、医師より家族へ説明があります 		創部の処置が行なわれます (術後2~3日目)	創部の処置が行なわれます術後(8~9日目)		
その他	術後に使用する、ニーブレース(装具)の採寸を行います 外来でドンジョイ(装具)の採寸を行っていない方は 義肢装具士による採寸が行なわれます 						
リハビリ	外来で行っていない方は 筋力測定を行うことがあります		病棟での膝屈伸運動(CPM)が毎日2時間あります。時間はリハビリ室での訓練の時間と調整して組まれます 毎日(日曜・祭日以外)訓練室でのリハビリがあります 手術後の過度なリハビリは、手術の効果が損なわれてしまう場合もありますので、理学療法士のメニューにそってリハビリを行います リハビリは手術後1日目より6ヶ月を目安に続けます。退院までに、膝の屈曲120°を目標にリハビリを行います 退院後のリハビリについては理学療法士に御相談ください 				
検査	必要に応じて追加の検査を することがあります 				血栓の有無を確認するため エコー検査を行います (術後4~5日目) 	術後の確認のため 膝のレントゲンを 撮ります 	
薬物療法	点滴	手術後、当日から翌日まで補液の点滴と抗生剤の点滴を行います 					
	内服薬	持参薬をお預かりし確認します	術後、鎮痛剤が使用出来ます 	消炎鎮痛剤・胃薬の内服薬があります			
説明	入院と手術に関する説明をします 手術当日は手術開始時間によって 食事制限があるため入院日15時以降 に看護師が説明します 運動靴、バスタオル、氷のう(Lサイズ)、 ハーフパンツ又は短パンをお持ちください	手術後、血栓症の予防の為、下半身の 麻酔がさめるまで、足首の曲げ伸ばしを 行ないます	病棟での膝屈伸運動(CPM)の説明があります 		シャワー浴時の注意について 看護師から説明があります		病棟クラークより退院会計、次回 診察日の予約説明があります リハビリの予約は、リハビリ室の 受付で行ないます
目標	手術が受けられる身体状態である	創痛がコントロールされる	術後、腓骨神経麻痺が発生しない。深部静脈血栓が発生しない 転倒無く退院が迎えられる。退院まで継続的にリハビリが実施できる				創部離解が無く退院ができる